

ECセンターの活動概要

これまでの成果、これからのVISION

企画部会

目次

1. JEITA ECセンターの概要
2. 2015年度各委員会の活動概要
3. タスクフォース活動概要
 - 3-1. ECセンター将来の活動方向性
 - 3-2. つなげる・ひろげる国際、業際EDI

1. JEITA ECセンターの概要

JEITA／ECセンターは、電子機器および半導体・電子部品等の商取引情報および技術情報を企業間で電子交換・再活用が可能となるよう、用語・取引に係わる情報の種類・形式を標準化し維持管理を行います。

また、その他電子商取引の普及・促進に関する以下の事業を行います。

事業内容

- (1) IT・エレクトロニクス業界におけるEC戦略課題の検討および具体化
- (2) EC関係情報に関する標準の拡充と維持
- (3) EC実用化の検討並びに推進
- (4) 国内外関係機関および団体との情報交流、国際協調および調査研究

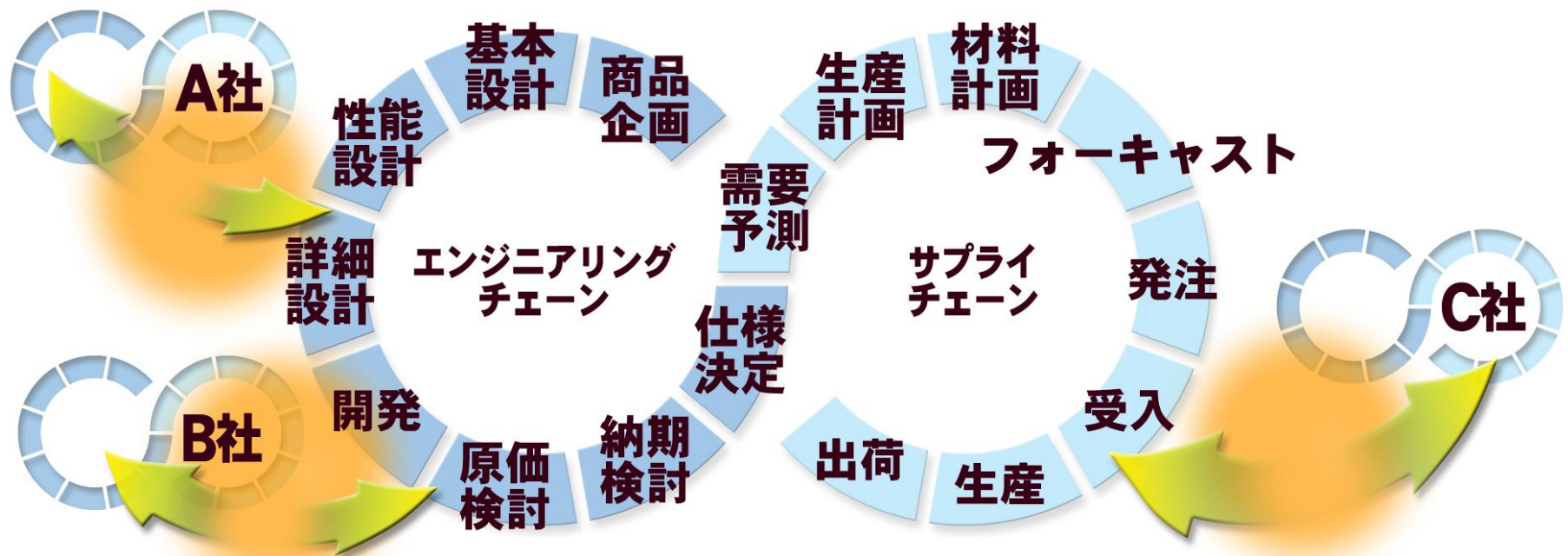
ECALGA

以上の目的を達成するための事業の総称および標準の総称をECALGAまたはECALGA事業と称します

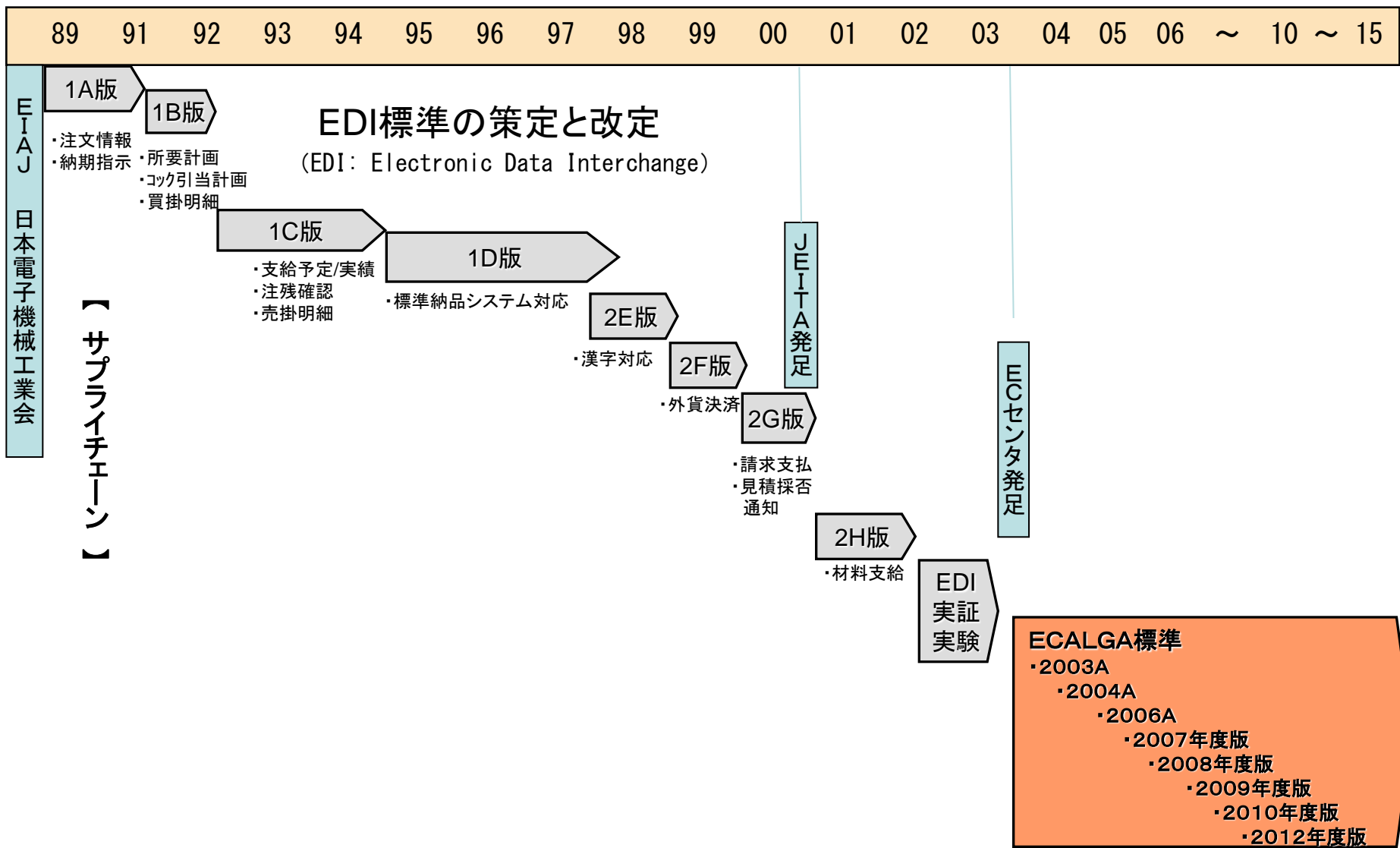
1-2. ECALGAのコンセプト

Electronic Commerce ALliance for Global business Activity

全ての壁を越えて、全てのビジネスプロセスをグローバル且つシームレスに繋ぎ、ダイナミックなビジネス展開を可能にするビジネススタンダードである。



1-3.標準化の歴史(SCM)

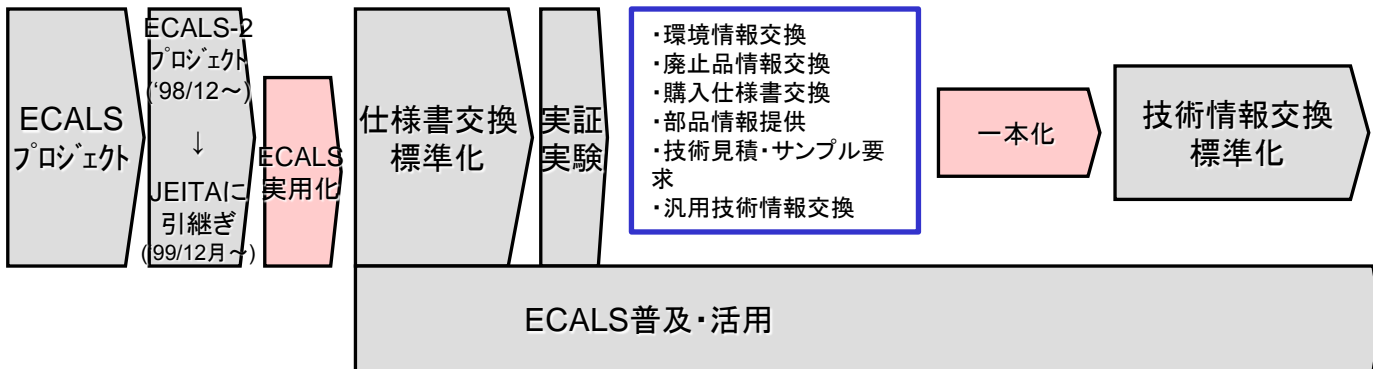


1-4.標準化の歴史 (ECM)

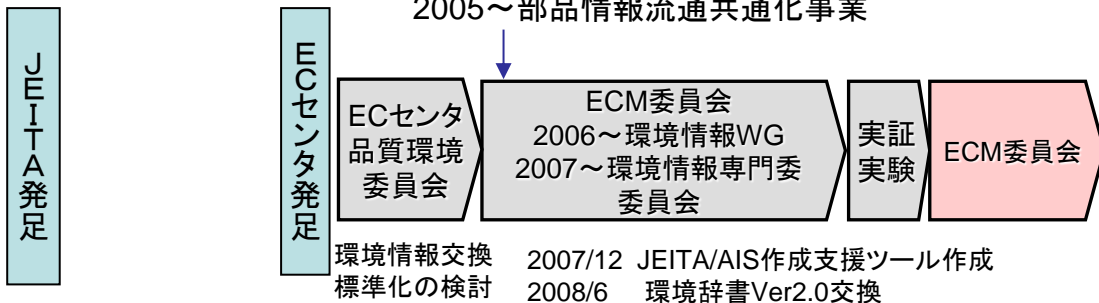
89 91 93 95 97 98 99 00 01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 ~ 15

【エンジニアリングチェーン】

ECALS辞書



環境情報

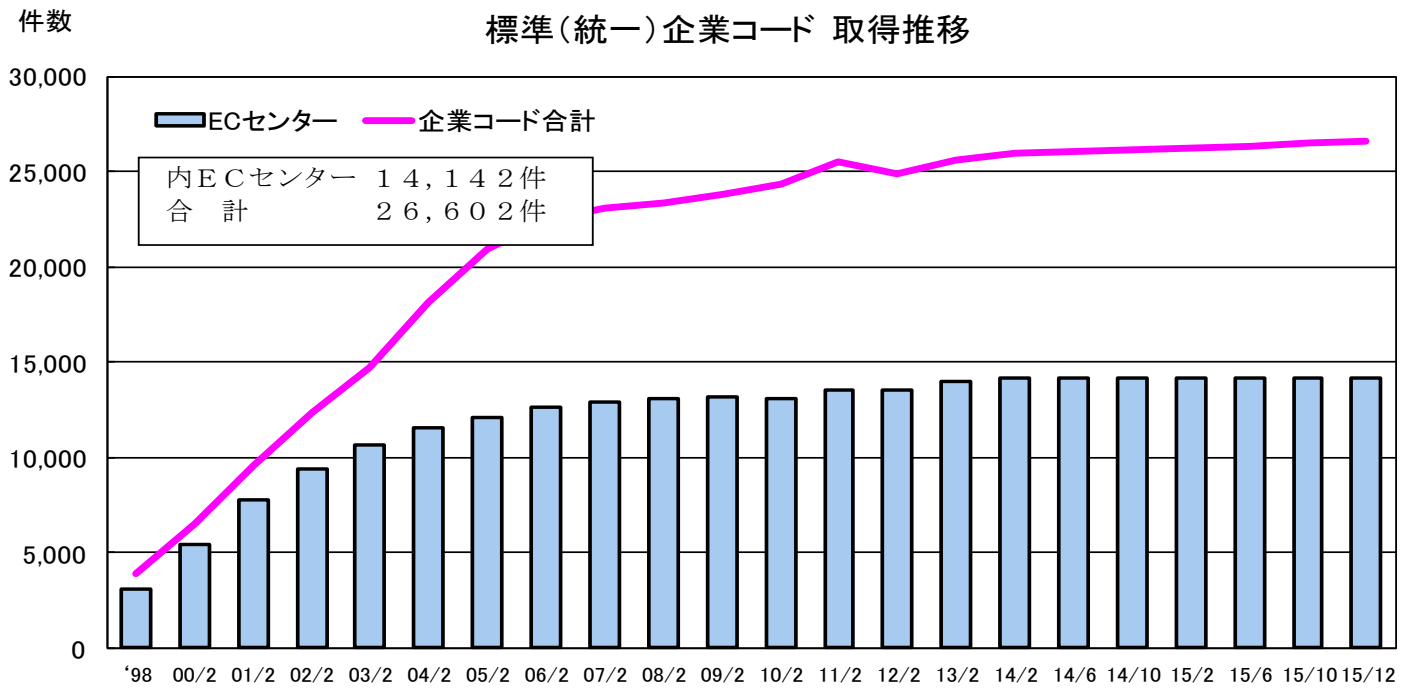


ECALS辞書: 部品情報の提供・公開にあたり、部品分類や特性記述を標準化した辞書。
 電子部品の分類体系や各部品特性情報の体系を、国際規約ISO13584、及び国際辞書標準IEC61360-Part4に最大限準拠して開発されたもの。
 600以上の部品クラスと4000以上のプロパティ(特性情報)から構成される。

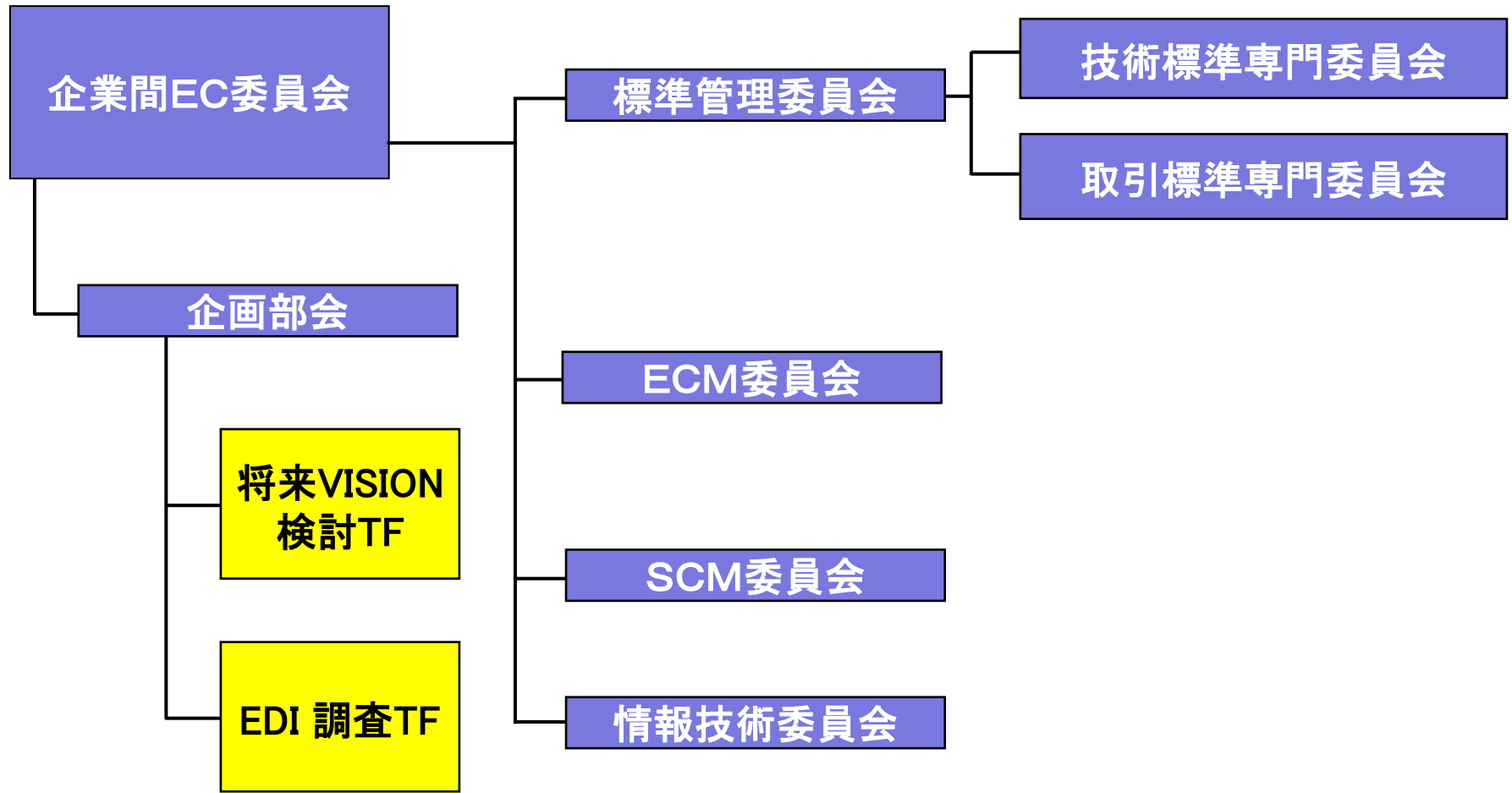
1-5. 統一企業コードの推移

(2015/12現在)

- ・合計26,602件。内、ECセンター14,142(約53%)
- ・IT,エレクトロニクス業界(国内)ほぼ普及
- ・今後は業務範囲拡大、グローバルへ展開 ⇒ タスクフォースにて検討



1-6. ECセンター推進体制



2. 各委員会活動概況

2-1. ECM委員会の活動概況

2-2. SCM委員会の活動概況

2-3. 情報技術委員会の活動概況

2-1. ECM委員会活動概況

2-1(1). 委員会組織改編と取組みの整理について

2-1. ECM委員会改編について

旧来

ECM委員会

エンジニアリングチェーンに於ける
技術情報交換の標準化推進

ECALS実用化専門委員会

IBIS推進ワーキング

2015年度

ECM委員会

エンジニアリングチェーンに於ける
技術情報交換の標準化推進と普及促進

IBIS推進ワーキング

・ECALS実用化専門委員会をECM委員会に吸収し、技術情報交換の標準化推進と実用化推進の一体化を図り、効率的に標準化推進と普及促進を目指す。

2-1(2). 2015年度 ECM委員会活動内容の報告

(2)-1. 標準化推進

- ・技術情報交換標準の維持管理。(要望に基づき、検査成績書の電子化を検討)
コンデンサを題材に検査成績書の雛形を作成し、標準化検討するも業務効率性向上などを総合的に判断し標準化を中止。

(2)-2. 標準支援ツールの維持管理

- ・環境情報交換(AIS支援ツール)向け、物質リストの改廃
- ・ECALSデータ作成支援ツールの保守改善
- ・ECALS公開検索サーバの必要性を議論しサービスを終了

(2)-3. 普及促進活動

- ・普及促進に向け、メールベースでの技術情報交換標準有効性を確認する為
実証実験を企画し、実験に着手。
(2016年度にECALGA技術情報交換標準にメールベースでの交換標準を検討)

2-1(3). IBIS推進ワーキングの活動報告

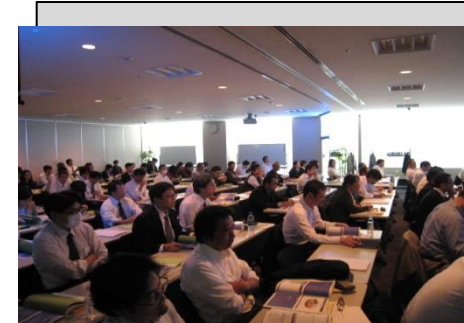
(3)-1. IBISモデルの利用促進活動

・IBISモデル(デジタル信号波形解析用の半導体デバイスモデル)の利用促進
および利用技術底上げを目的に 以下の活動を実施

- ①解析プロセスの標準化
- ②IBIS仕様の解説作成
- ③最先端モデル技術の解説作成
- ④IBISセミナーの開催(2015年11月)

①～③の活動アウトプットから初心者向け解説テキスト(全143ページ)を作成

本テキストを用いて
④のセミナーを実施



IBISセミナー会場の様子

- 参加者数: 93名
- アンケート結果からも「初心者向け」という目的が十分達成できたことが伺えた

2-1(3). IBIS推進ワーキングの活動報告

(3)-2. IBIS Open Forumとの技術交流活動

・モデル標準化への参画および最新技術の国内展開を目的に、IBISの国際標準化団体である“IBIS Open Forum”と、以下の技術交流活動を実施

①IBISサミット日本会議の開催(2015年11月)

- 参加者数: 64社108名
- 海外からの5テーマを含む計10テーマの発表と意見交換が行われた

②IBISサミット米国会議への参加(2016年1月)

- 米国サンタクララで行われたDesignCon IBIS Summitに代表委員を派遣
- IBIS推進WGの活動報告を発表、IBISモデルやForumに対する要望も提示

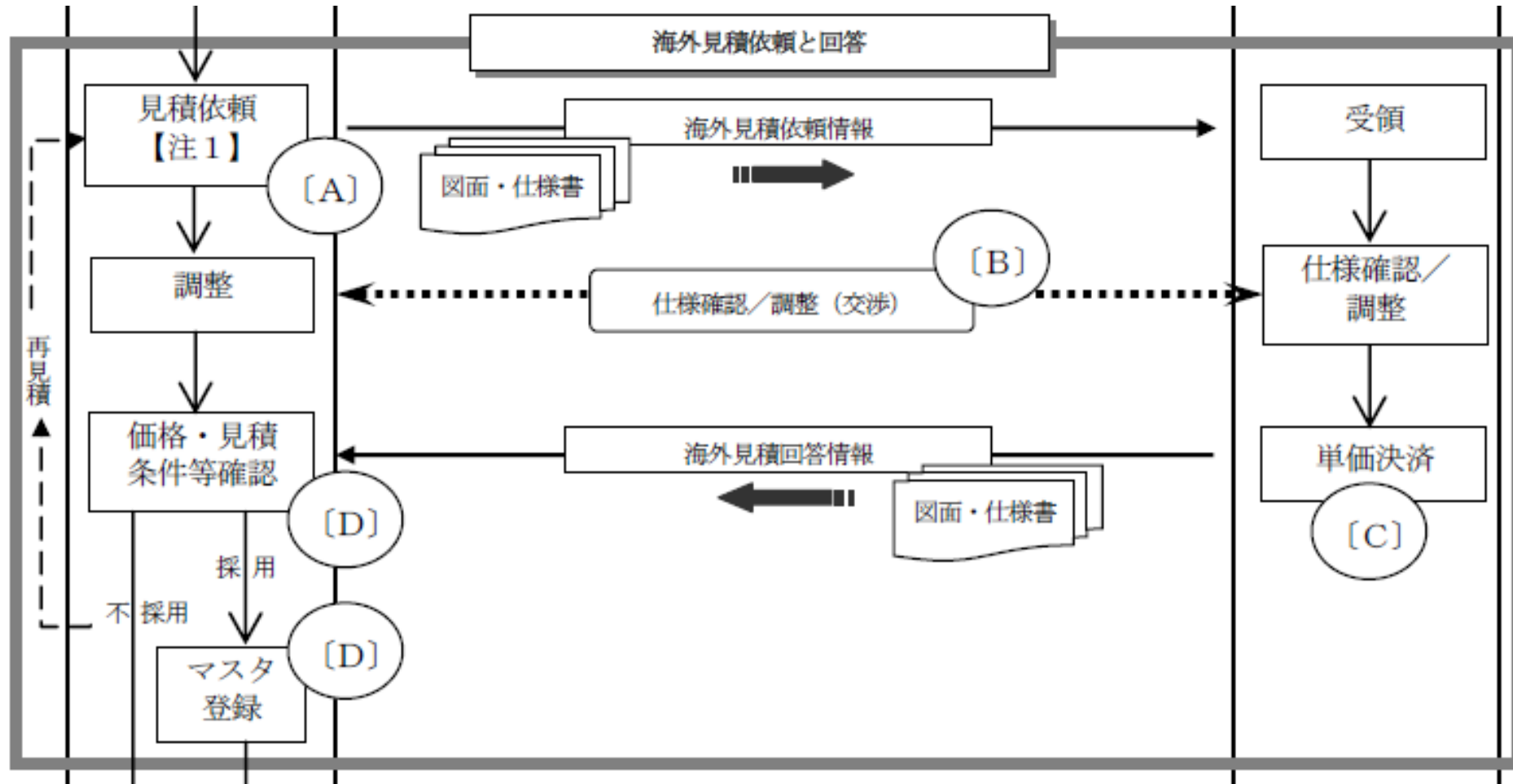


IBISサミット米国会議での
当WGの活動報告の様子

2-2. SCM委員会活動概況

2-2(1). 海外見積情報の新規開発

1. 海外見積依頼情報、海外見積回答情報の新設及び集約管理項目の追加
2. 見積依頼回数（発注者のみ使用）による版管理
3. 海外注文情報に見積依頼番号を追加

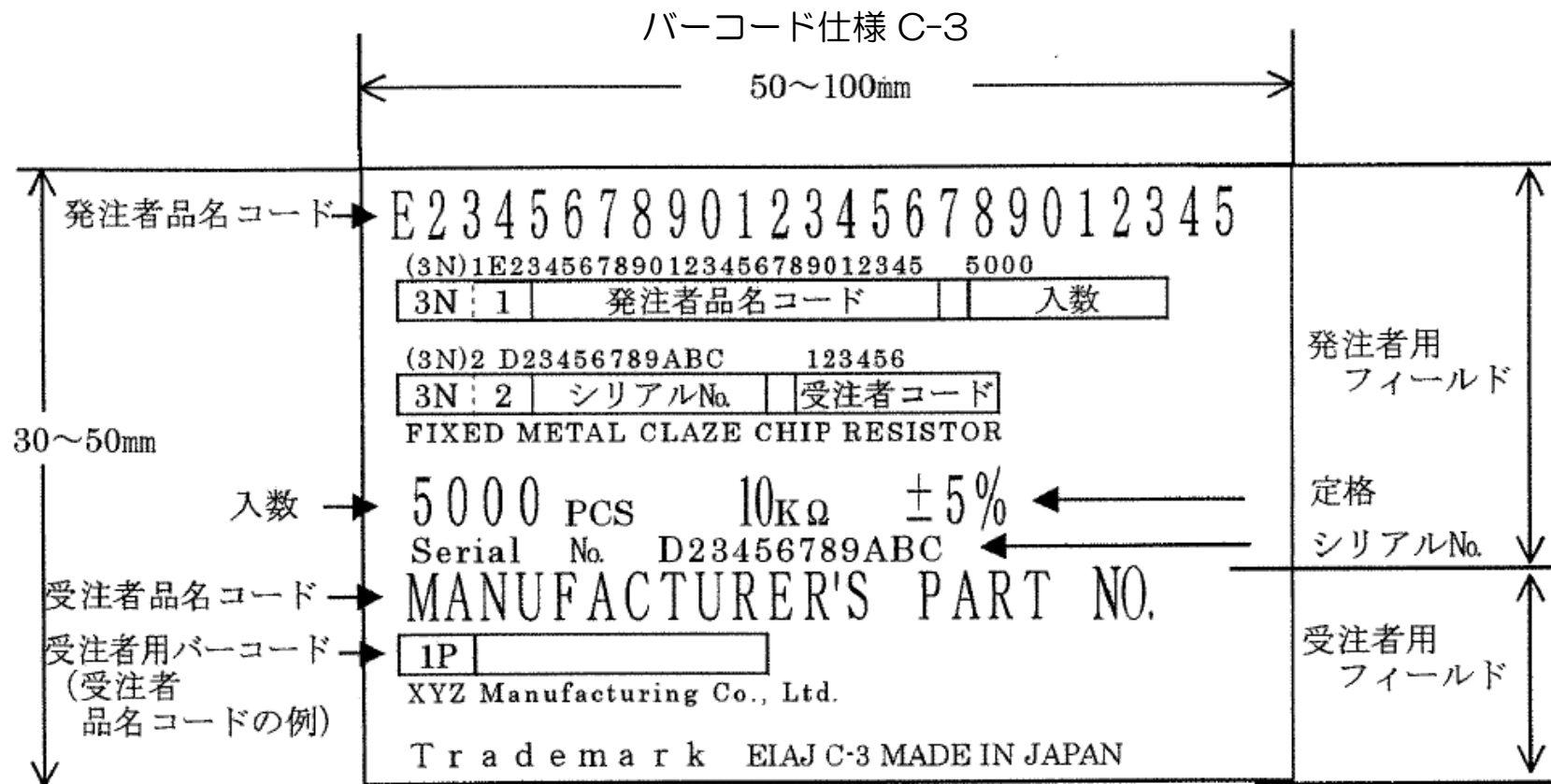


2-2(2). C-3ラベルについて

2. 「EIAJ C-3」見直し

SCM員会内に作業チームを設置し、標準書改定案を作成中です。

C-3ラベルの見直しについては、Code128対応に加え、2次元シンボル格納情報に関し、国際標準（IEC62090）の見直し案をベースにユーザー企業の要望を取り入れる予定です。現時点では、生産日、消費期限等の追加案が出ています。



2-3. 情報技術委員会活動概況

2-3. 情報技術委員会の活動概況について

- NTT発表のPSTNマイグレーション(2020年より順次、公衆交換電話網をIP網に統合する計画)により、既存EDIの方式変更が必要。
- 全ての企業が円滑に対応を進められるよう、将来を見据えた恒久対応と喫緊の移行を乗り切るための暫定対応を情報技術委員会として検討している。

方式概要

活動概況

暫定対応

- ✓ 投資余力の小さな企業向けの、既存設備を最大限活用した、低コスト緊急対応策

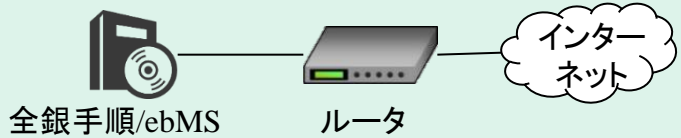


- ✓ 総務省へパブリックコメントを提出(16年3月)
- ✓ 総務省の移行円滑化委員会*にて、利用者保護と円滑な移行のあり方を提言(16年5月)

*公衆交換電話網移行を円滑に進めるための施策を検討する総務省主催の委員会(NTTも出席)

恒久対応

- ✓ ソフトウェア(ebMS)または、通信機器により通信経路を暗号化し、インターネット上でセキュアに送受信する解決策



- ✓ VPN方式と機器(暗号化ルータ)を比較検討中
- ✓ 2016年度中を目処に業界標準方式を決定予定

3. タスクフォース活動概況

3-1. ECセンター将来の活動方向性

3-2. つなげる・ひろげる国際、業際EDI

3-1(1). 将来VISION検討タスクフォースの経緯

【検討の背景】

- ・取引関係の変化:電機業界内の取引⇒自動車、通信等業の他業界取引増加
- ・ビジネスモデルの変化:1社対1社⇒グローバルで、EMS, 3PLなど関与者増など

目的:現状の課題確認と対策

①業務視点(SCM/ECM)
自社の業務に
起きている変化、
その背景、課題把握

②技術視点
技術面の変化、課題把握
クラウド、IoT、SaaSなど
利用形態の変化

(Software as a Service)

③先進事例、他業界、
グローバルでの取り組み
調査

【将来VISION検討TF 発足】

参加企業:NEC、日立、富士通、アルプス電気、KOA、京セラ、TDK、村田製作所

ECの変遷、現状、近未来の変化を捉え、今後のEC全体像、将来の活動方向検討。(将来イメージ:会社間のシステムtoシステム連携から組織内の人to人連携/SNS/ライフサイクルを通じた情報連携/電子債権活用など)

3-1(2). ECセンター活動の方向性

ECセンターの将来VISIONの検討: 将来VISION検討TF

①潮流の把握: CPS *1、IoT *2等テクノロジートレンドの把握
関連業界の今後の方向性、先進事例の把握

(*1 : CPS : Cyber Physical System *2 : IoT : Internet Of Things)

②あるべき姿(ECのTo Be像)の具体化
: 企業間の電子情報交換の新たな潮流への対応策の立案

③活動方向性の策定(2016年度活動方針に反映)

• はじめの一步

JEITA関連の業界や欧米・アジア等国际EDIの近未来の有力標準への対応
EDI調査TFを中心とした対応

- ① 関連業界対応：自動車、通信、ヘルスケア、電力、物流 等
標準化動向把握、ビジプロ等の標準化ニーズの有無調査
ニーズがある業界との連携方法等の検討

- ② 国際標準団体：実態を調査し、今後のECの方向性を検討
欧米標準化団体の今後の取組み方向の把握
アジア重点国に進出した企業のヒアリング

ご清聴ありがとうございました。